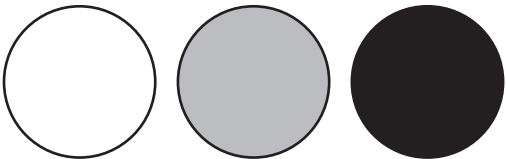
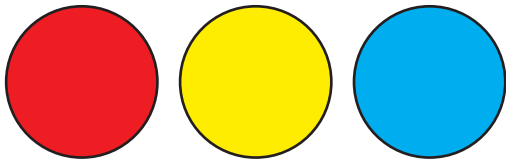


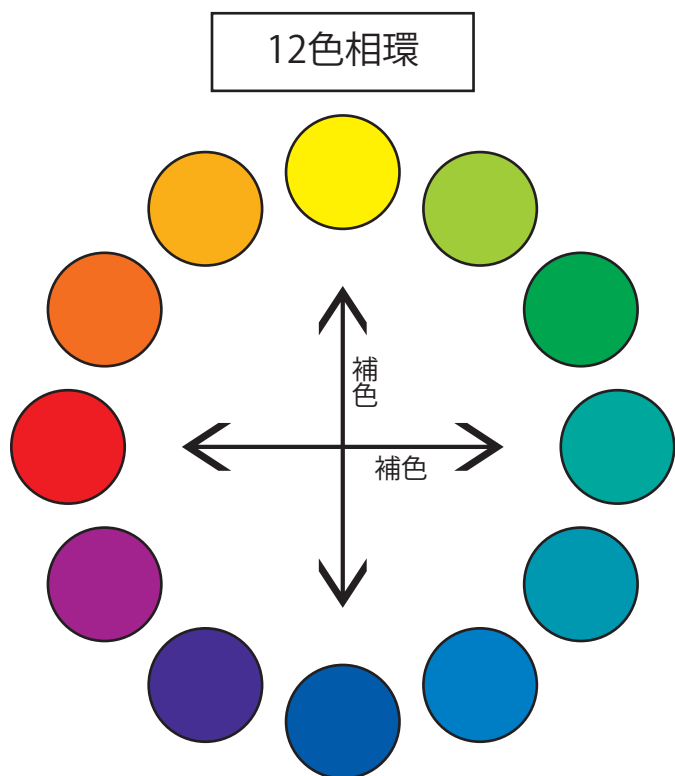
美術概論 I	報告課題第1回 解説	年 組 氏名
--------	------------	--------

色彩の基礎について

色は大きく次の2つに分けられます。

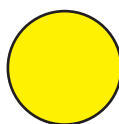
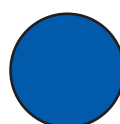
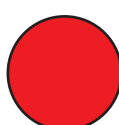
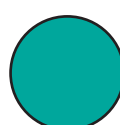

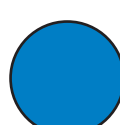
 <p>無彩色 —— 色みを持たない色。 白、黒、灰色。 明るさ(明度)の違いによって区別されます。</p>	 <p>有彩色 —— 赤、黄、青、などの色みのある色。無彩色以外の色。</p>
--	--

有彩色は色みの似ている順に並べると円形になります。(これを色相環といいます。) 12色相環は標準色の12色を円形に並べたものです。



互いに向かい合う色は補色といいます。

例えば

き	と	あおむらさき
		
あか	と	あおみどり
		
きみのだいたい	と	あお
		

この補色の2色を混ぜると理論的には黒または灰色になります。

色相環を作ってみようについて

下の12色相環の図を参考に、実際に色相環を作ってみましょう。

色鉛筆のセットの中には、○に書いてある色が入っていない色もあります。
報告課題の“色の名前と色鉛筆の種類”の表を見ながら丸の中をはみ出さないように
きれいに塗ってみましょう。

色鉛筆の種類の部分に2色書いてある場合は順番に塗ってください。

- 例えば“あおむらさき”を塗る場合、
- ①あお”を先に塗ります。
 - ②次に薄めに“あか”を重ねて塗ります。

(順番を間違えた場合は消しゴムで消して塗りなおせます。)

※色鉛筆の色数が少ないので、下の図のように正確な色が出ない所もあります。

